

名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル
(TEL：052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分
クラブ会報広報委員長：岩田 宏
HP：<http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2024-25年度 R.I.テーマ
会長：ステファニーA. アーテック



Rotary
Club of Nagoya Marunouchi

承認
会長
幹事
事務局
1995.03.28
加藤 豊
田中 如似
名古屋クレストンホテル
1007号
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
E-mail seinan1@fancy.ocn.ne.jp

加藤 豊 会長 年度目標：30周年を祝おう！ そして新しい時代を迎えるための楽しい体験を積もう！

第1277回 例会 No. 18 令和6年12月19日 (木)

- ローターソング 「それでこそロータリー」
- 出席報告 会員46名中20名出席
- 出席率 47.62% 出席計算人数42名
- ゲストスピーカー 愛知県環境局 環境政策部
自然環境課 生物多様性保全グループ
主幹 大島 孝士 様
- ゲスト 米山奨学生 キム ジ ウォンさん

会長挨拶

加藤 豊

みなさんこんにちは。2024年最後の例会を始めます。先日はクリスマス家族会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございました。今回のクリスマス会では、子供たちの参加が少なく、というよりも、ついこの間まで子供だった子たちがみんな大きくなってしまい、お菓子を詰め込んだ長靴を配りたくても、それを喜んでくれる小さな子供がいなくて困りました。また、新入会員の皆さんの参加が少なかったことも残念でした。ご家族でなくてもご本人だけでも参加は大歓迎ですので、次年度はぜひ積極的にご参加いただければと思います。



さて、本日は外部講師として、愛知県環境局の大島孝士さんにお越しいただいております。後ほど「あいち生物多様性戦略 2030 について」お話しいただきます。大島さん、どうぞよろしくお願いいたします。

今日は2024年最後の例会ということで、2024年という一年を簡単に振り返りたいと思います。今年はや元日から能登半島地震や羽田空港の航空機事故など、災害や事故のニュースで始まりました。新年早々「大変な年になるのでは」と思いましたが、その後は良いニュースもいくつかありました。例えば、1月20日にはJAXAの月面探査機が月面の着陸に成功し、旧ソ連、アメリカ、中国、インドに次ぐ5番目の快挙を達成しました。

また、2月には日経平均株価が1989年以来の新高値を更新しましたし、3月には日本で制作されたゴジラ映画が米国アカデミー賞の視覚効果賞を受賞しました。この賞はこれまで『スター・ウォーズ』、『ジュラシック・パーク』、『タイタニック』などのビッグタイトルが受賞しており、日本映画がこの賞を受けるのは非常に名誉なことだと思います。

さらに、大谷翔平選手はドジャースに移籍後、通訳の問題でトラブルを抱えましたが、9月にはメジャーリーグ史上初の「50本塁打・50盗塁」を達成し、10月にはワールドシリーズを制覇するなど、年初の困難を誰も覚えていないほどの大活躍を見せてくれました。

こうして振り返ると、年明け当初はどうかと心配していた2024年も、真摯に努力を続けた人たちが不幸を乗り越え、大きな成果を挙げた一年だったと言えるのではないのでしょうか。大変意義深い一年だったように思います。ただ、政治的には依然として不安定な状況が続いています。世界はグローバリズムの時代から分断の時代へと進み、ウクライナ戦争では北朝鮮が実質的に参戦し、ロシアがウクライナに足を取られている間に、中東ではヒズボラが壊滅的な打撃を受け、シリアのアサド政権が崩壊しています。第二次冷戦はすでに佳境に入りつつあり、ウクライナでは東側が、中東では西側が優位に戦況を進めているように見えます。

これらの紛争が日本に良い影響を与えるはずもなく、輸入物価の上昇に伴いインフレが深刻化しています。実質賃金が上昇していない影響もあってか、10月の衆議院選挙では自民党が大敗し、少数与党へと転落しました。このような慌ただしい情勢の中で、私たちも仕事に集中できない場面があったかもしれません。しかし、大谷選手を思い出してみると、自分に与えられた仕事に真剣に向き合うことで、新たなチャンスをつかむことができると感じます。

2024年を振り返りつつ、私たちも新しい年に向けてより一層の努力をしまりましょう。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

ポリオプラスソサエティ 登録証伝達

新たにポリオプラスソサエティの会員となられた恵利有司さんに、加藤会長より登録証を伝達いたしました。



ニコBOX

●本日は卓話に愛知県環境局環境政策部 自然環境課 自然多様性保全グループ主幹 大島孝士様にお越しいただきました。会員一同歓迎いたします。宜しくお願いいたします。なお本日は上半期最後の例会となります。皆様良いお年をお迎えください。

加藤会長、田中幹事、杉江、岩田、安江、山崎彰子、後藤、梶谷、恵利、西川、水野、田島、森田、長谷川
(敬称略)

小野さん お誕生日のお祝いを有難うございます。

藤田さん 今年一年お世話になりました。来年もどうぞ宜しくお願い致します。

磯部さん 本日バッジを忘れました。先週のクリスマス、女性のサンタさん「お風邪」を召されませんでしたか。

本日合計 39,000 円

米山奨学金贈呈

キム ジ ウォンさんに米山奨学金12月分を加藤会長からお渡ししました。



【ご挨拶 キム ジ ウォン】

皆さんこんにちは。

奨学金をご支援いただき誠にありがとうございます。最近年末の集まりが多いので、生活費として大切にに使わせていただきます。

今月は、その奨学会が主催した米山合同忘年会と丸の内クラブのクリスマスパーティー、二つのイベントに参加しましたが、たくさんのクリスマスプレゼントをいただき、様々な方々の素晴らしい歌も聴くことができ、とても有意義な時間を過ごしました。

またこの場にはいらっやらないですが、8ヶ月間、私のカウンセラーとして支えてくださった石井さんや、毎回声をかけてくださった丸の内クラブの皆様感謝いたします。来年もどうぞよろしくお願い致します。

最後に、最近インフルエンザが流行っているようですので、体調に気をつけてください。

幹事報告

田中 如以

来月の予定ですが、1月9日からスタートいたしますのでよろしくお願い致します。1月9日は会員卓話、ガバナー補佐の藤田守彦さんをお願いしています。

1月23日の職場見学ですが、まだまだ募集しておりますので、ご都合のつく方は、是非ご参加くださ



い。1月30日、外部卓話で愛知ロータリー学友会の会長小粥葵さんにお越しいただきます。

2月9日の日曜日に、岡山丸の内ロータリークラブの35周年記念式典がございます。参加表明して下さっている方は、新幹線の手配などご自分で行っていただくようお願いいたします。13時30分から登録受付ですので、その時間に間に合うように各自でお越しください。よろしくお願い致します。

卓話

愛知県環境局 環境政策部 自然環境課 生物多様性保全グループ 主幹 大島 孝士

【卓話者のご紹介 小野素尊】

大島孝士さんのご経歴を紹介いたします。

2005年の4月に愛知県庁に教育委員会事務局に採用されています。2012年の4月に環境局環境政策課予算経理グループ、2014年4月文科省に出向、ESDに関するユネスコ世界会議を開催し、2015年4月環境部地球温暖化対策室、2018年4月総務局財政課予算担当、2022年4月環境局自然環境課生物多様性貢献グループ、2024年の4月から現職、生物多様性保全グループの主幹となられています。

「あいち生物多様性戦略2030について」
～ネイチャーポジティブに向けた愛知県の取組～



愛知県環境局 自然環境課で生物多様性保全グループに所属しております大島と申します。本日は自然環境課の取組についてご紹介させていただく機会をいただき、誠に有難うございます。愛知県自然環境課には、自然公園G、野生生物・鳥獣G、国際連携・生態系 G がございます。他のグループの業務を取りまとめる役割を私のグループは担当しており、本グループでは、主に NPO や企業様などと連携しながら取組を進める担当をしております。

本日は、本課が作成しております計画「あいち生物多様性戦略2030について」(ネイチャーポジティブに向けた愛知県の取組)と題しまして、本県の生物多様性保全の取組を中心に、最近の国際情勢についても触れながらご紹介させていただきます。ネイチャーポジティブというワードだけでも覚えていただければ幸いです。何卒よろしくお願い致します。

まずは、皆さま復習をさせていただきます。

「生物多様性について」地球上には様々な多様性が存在します。生態系、種、遺伝子の多様性が存在します。樹木がどんぐりを生産し、そのどんぐりをネズミや鳥が食べ、そのネズミを狐やフクロウが食べ、糞をして微生物に分解され、また樹木の栄養となって循環している。この生き物のつながりの中

で、生き物と同様に生き物の一部として人間は生活を営んでいます。生活を営むにあたり、様々な恵みを自然環境からいただいています。土壌を形成し森林から酸素の供給や栄養の循環を我々の無意識(日々感じ取れない)のうちに、土壌や樹木の働きにより享受ができています。その基盤の上に食料の供給(供給サービス)、気候調整や、水質浄化(調整サービス)、お花見、紅葉、滝や川の音を感じるレクリエーションなど(文化的サービス)により、心のリフレッシュができています。会社における福利厚生機能にも寄与するのではないかと思います。

虫が苦手という方はいらっしゃると思いますが、自然環境、自然景観があまり好きではないという方は、あまりいないと思っています。

次に、44兆ドル この数値に聞き覚えはありますか。

44兆ドル

2020年に「自然とビジネスの未来」報告書において、発表した数値です。(世界経済フォーラム)

これは、GDP(国内総生産)の半分にあたる44兆ドルが自然に依存しており、自然の棄損が経済的損失につながることを示しました。

特に「食料・土地利用」、「インフラ・建築」、「探掘・エネルギー」などの産業が種の絶滅の大きな原因と指摘しています。

これまで、自然は公共部門が守るものであり、経済システムの中ではタダ同然に扱われてきました。

例：木材を創出する森林、水を育む森林や土壌 等
(出典：『生物多様性・ネイチャーポジティブ経営』 藤田啓者から引用)



この数値は、世界経済フォーラムが発表したものです。世界経済フォーラムは、世界情勢の改善に取り組む国際機関です。この機関がGDPの半分にあたる約44兆ドルが自然に依存していると明らかにし、経済的な損失につながると警笛を鳴らしました。

種の絶滅の大きな要因の一つは、開発行為や化学肥料を多く使用する食料生産などが原因だと指摘しています。

自然は従来から公共財との認識でタダ同然で、自然資本という価値が市場に反映されていません。最近の事例では、熊本の半導体工場 台湾の TSMC が稼働しています。九州地域が半導体工場の集積地という要素もありますが、水がきれいな土地であることです。熊本はすべて地下水で賄われており、自然の恵みにより成り立っている事例といえます。

SDGsを聞いたことがあると思います。持続可能な開発目標は、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。私たちがグローバルな課題の解決を目指すための、17のゴールが定められました。貧困国から我々のような豊かな国、すべての国がこの国際目標を念頭に入れて生活をしていくものとして示されました。

SDGsのウェディングケーキモデルについてご説明します。

SDGsのウェディングケーキモデル



環境(自然)は、経済・社会を支える基盤である ⇒ 自然資本

SDGsウェディングケーキモデル: レジリエンスセンター ヨハン・ロックストロム所長

これはスウェーデンの(首都ストックホルムにあるレジリエンス研究所の)方が考案した SDGsの概念です。3つの階層に分かれておりますが、上から「経済圏」、「社会圏」、環境の「生物圏」によって構成されています。「経済」の発展は、生活や教育などの社会条件によって成り立ち、「社会」は最下層の「生物圏」、つまりは人々が生活するために必要な自然環境によって支えられていることを表しているものです。

目標6「安全な水とトイレを世界中に」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさを守ろう」ですが、昨今では、世界中の国や技術が発展・成長を続けています。しかし「自然環境」が土台になることによって生み出されており、「社会」や「経済」はこの環境「自然資本」無くしては成り立ちません。

地球の限界(プラネタリー・バウンダリー)を示している資料が2022年度に公表されています。気候変動については、世界各地で異常気象により災害が発生している中、その対策が求められていますが、生物多様性の損失においても、気候変動による影響に加えて、種の絶滅速度が加速しています。需要の増加や技術の進歩による過剰利用や里地里山の管理不足等によって生態系のバランスが崩れているため、警笛を鳴らしています。

2022年12月 カナダ モントリオールで国連生物多様性条約第15回締約国会議 COP15 が開かれました。そこで、新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が定められました。この目標には、温暖化対策・脱炭素化に向けたカーボンニュートラルや資源循環のサーキュラーエコノミーに続く、重要課題としてネイチャーポジティブという考え方が入りました。目標15には、企業に向けた目標も定められました。これを受けて、金融業界が企業に対して、自然環境への影響について情報開示を求める動きが始まっています。

そのため、カーボンニュートラル、や資源循環のサーキュラーエコノミーに続き、ネイチャーポジティブが重要課題として認識されました。

(2024年10月には第16回締約国会議 COP16 がコロンビアのかりで開かれました。この会議では、各国の戦略の策定状況の進捗や遺伝子に係る資源の取り扱いなどが議論されました。EUでは、森林破壊防止義務化に向けて法制化が進んでいます。パーム油、大豆、ココア、ゴムなどを生産するインドなどから反発を受けています。)

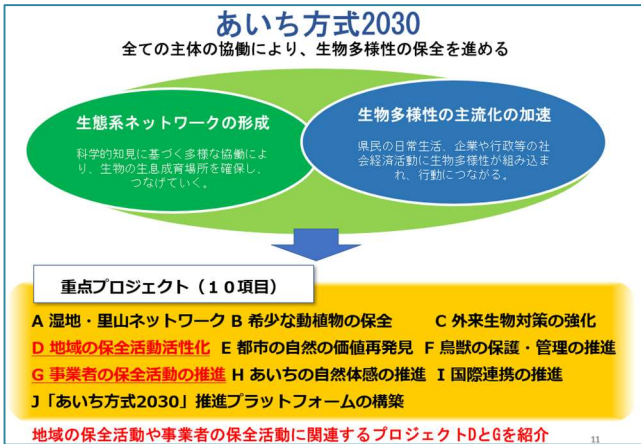
ネイチャーポジティブとは、2020年を基準年にして、2030年までに自然の損失を食い止め、2030年までに反転させて、2050年までに完全な回復の達成に向けた考え方です。

加えて、2030年までに国土の30%を生態系として効果的に保全する30by30目標が世界目標となり、国は、企業等の民間が取組む、生態系を保全する区域や活動を認定する制度を開始しました。愛知県ではこれまでに18件が認定されています。(全国2位)

(人間と自然の相互作用により人間の身体的、精神的、社会的に良好な状態(ウェルビーイング)になることを目指していくものです。自然からの恩恵(サービス)に対して、慎重な活用と保護を通して社会的利益を模索していく必要があります。)

愛知県では、2021年2月に、2030年に向けた生物多様性施策の指針となる「あいち生物多様性戦略2030」を策定しました。本戦略では、2050年までの長期ビジョンを「人と自然が共生するあいち」とし、2030年までの目標を「人と自然の共生に向けて、生物多様性を主流化し、あらゆる立場の人々が連携して最大限の行動をとることにより、生物多様性の保全と持続可能な利用を社会実装し、その回復に転じる。」として

います。これは、「生物多様性の損失を反転させ、回復に転じる」というネイチャーポジティブを本県としても目指していくという宣言です。この戦略では、中核的な取組方針として「あいち方式 2030」を掲げています。



この「あいち方式 2030」は、「生態系ネットワークの形成」と「生物多様性主流化の加速」を両輪とし、全ての主体の協働による生物多様性保全の推進をめざして、10項目の重点プロジェクトを定めています。

本日は、この10の重点プロジェクトの中から、プロジェクトD「地域の保全活動活性化」とプロジェクトG「事業者の保全活動の推進」の取組をご紹介します。

まずは、重点プロジェクトD「地域の保全活動活性化」についてです。

愛知県では、多様な主体の協働の場として、県内全域をカバーする9地域で、「生態系ネットワーク協議会」が設立されています。各協議会では、それぞれの構成団体が協働し、地域の実情に合わせた生態系の保全・再生・ネットワーク化を進めるための独自の取組を行っており、今日現在で、9つの協議会に、企業、NPO、大学、行政など、計305団体が参加しています。一般の方を募集して河川に入り、生き物を捕まる自然体験会を開催する協議会や、企業が育てた苗を植樹する協議会などがございます。ご興味がございましたら、是非加入していただくと幸いです。

続きまして、重点プロジェクトG「事業者の保全活動の推進」です。本県では、2022年4月に、生物多様性保全に取り組む企業を認証する「あいち生物多様性企業認証制度」を創設しました。近年、企業における生物多様性保全への取組は大変重要視されており、敷地内にビオトープを設置したり、社員が除伐等の森づくりに取り組んでいただいたり、近隣の学校等と連携した出前講座などの普及啓発活動を行うなど、社会貢献活動として実施する企業が増えています。この認証制度は、そのような企業の生物多様性への取組意欲を高めるとともに、他企業への波及効果により、生物多様性に係る取組を県内に広げることを目指すもので、世界有数の産業集積を誇る愛知県においては、特に意義のある取組であると考えております。

対象は、愛知県内に本社または事業所を置く企業で、企業全体でも事業所単位でも申請することができます。

また、認証の区分としては、2種類あり、通常の認証区分のうえに、広がりや継続性があるなど、特に優れた取組を行っている企業を対象とした優良認証を設けています。

なお、これが認証企業のロゴマークとなります。



次に認証にあたっての評価項目と認証基準について説明いたします。

組織として生物多様性の取組に関する方針や目標が定められているかに加えて、希少種保全や外来種駆除などの豊かな生態系を「まもる」活動、ビオトープなどの生き物が生息する空間を整備し「つなげる」活動、製造や流通などの企業活動において生物多様性に配慮した行動を行う「つかう」活動、イベントやホームページで活動を広報したり、先ほどご紹介した生態系ネットワーク協議会に参加するなどの「ひろめる」活動、といった4つの観点での取組実績に基づき、評価を行っています。



認証の評価項目

大項目	概要
組織の方針・体制等	方針・目標や取組計画の策定状況、人材育成等
(豊かな生態系を) まもる	希少種保全、外来種駆除、脱炭素社会・循環型社会の形成に向けた環境配慮経営等
(生息生育空間を) つなげる	生態系ネットワーク形成（植樹、ビオトープ整備等）、他主体との連携、専門家の意見反映等
(生きものの恵みを) つかう	サプライチェーンの環境負荷低減、生物機能を生かした技術・製造等
(人と自然との共生を) ひろめる	普及啓発、活動成果の一般開放、SDGsの取組、生態系ネットワーク協議会等への参画等

赤字で示しました希少種保全、外来種駆除、生態系ネットワーク形成、普及啓発は、企業が行う実践活動ということで、特に重点的に評価しています。

活動については、会社の幹部の方にはまずご理解をいただき、社員の活動にも理解をいただきたいと思っています。

認証された企業には、認証式で認証書をお渡ししています。2022・2023 度の認証状況は、優良認証企業21社、認証企業34社の計55社を認証いたしました。知事臨席のもとで認証式を実施し、各企業に認証書を授与しております。

企業側の認証のメリットとしましては、県Webページでの活動内容等を紹介させていただいているほか、認証企業マークの使用により社会貢献をアピールすることや、入札案件への加点もございます。



なお、愛知県としましては、今回ご紹介させていただきましたネイチャーポジティブの取組のほか、カーボンニュートラル（炭素中立）、サーキュラーエコノミー（循環経済）といった社会課題を同時解決していくことで、SDGs 達成に向け 環境を原動力に経済・社会が統合的に向上する『環境首都あいち』の実現を目指してまいります。

森林や海洋、農地、そこに暮らす野生生物たちと共生し、それらの天然資源を上手に利活用しながら折り合いをつけていく経営が求められるようになってきています。（絶妙なバランスの上で成り立っています）

引き続き、皆様の御理解、御協力、そして御参画をお願いいたしまして、愛知県における取組のご紹介をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。